

研究者紹介（和歌山県立医科大学）

準備中

人材育成プログラム 公立大学法人和歌山県立医科大学

【所在地】 和歌山県和歌山市紀三井寺811-1

【担当者氏名等】 事務局企画研究課

TEL:073-441-0801 FAX:073-441-0713

地域イノベーション戦略実現のために必要な人材像:

地域社会にある社会資源を有効に活用しながら、疾病予防を先導する人材

【「人材」が備えるべき要素】

1. 対象地域の特性を理解している

対象地域とは: 人の生活基盤であるコミュニティ、学区、主な通勤圏、医療圏など

- 地域ごとの地形や気候
- 流通や商業経済の仕組み
- 特産品(地産地消)、その効能、活用法など
- 住民気質—健康行動科学の観点から

2. 生活習慣病の基礎知識を有している

3. 地域ごとの社会資源や人材を有効に活かして、活動できる

【活動領域】

1. 医療・介護施設
2. 小中学校や高校など教育現場
3. 温泉など観光施設
4. 外食産業
5. (広い意味においては)コミュニティ、一般家庭、他

【既に在る人材のパワーアップと活用】

医師、看護師、保健師など医療従事者、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、ケアマネージャー、教育関係者、民生委員、母子保健委員、食生活改善推進委員、潜在看護師、フードコーディネーター、地域の町内会メンバー、保健福祉を学ぶ学生など

現在の地域の現状、課題:

【和歌山県の抱える問題点】

和歌山県では高齢化が進んでおり、全国で7番目に高齢者比率が高い(2012)。近畿地方においては1位である。平均寿命は男性37位、女性45位(2012)と、常に下位に位置している。健康寿命は男性25位、女性30位である(2010)。

また同県には都市部と農漁村部、海岸部と険しい山間部などが分布し、地勢や社会構造の差異が大きい。医療へのアクセシビリティや生活習慣にも地域差があり、住民の受療行動や健康度に影響をあたえている可能性がある。

【プログラムの推進における課題】

和歌山県民の平均寿命が全国でも下位に位置していることなど、前記した問題について、その背景要因については未だ明らかとなっていない。

また、医療環境などの県内の地域差が大きいことはわかっているが、地域ごとの住民健康度を表す指標を用いて客観的に比較するための分析が、十分に行われてきていない。

人材育成のためのプログラムを推進するにあたり、まずは県民の健康や生活習慣に関する実態把握を詳細に行い、その上でプログラムの目標エリアや優先順位を決めていく必要がある。

これは、本事業の松島克守フォローアップ・アドバイザーから指摘された点でもある。

具体的な概要：

前項で挙げたプログラム推進上の課題をふまえ、初年度の事業として、県民を対象としたコホート研究に着手することとなった。最終目標に向け、「地域社会にある社会資源を有効に活用しながら、疾病予防を先導する人材」を育成するために、その根拠となるエビデンスを蓄積していく。

実施結果：

コホート研究を行うにあたり、以下の2自治体を対象とした。

- (1) みなべ町： 県南部、海岸部。主たる産業は農業（一部漁業）。少子高齢化、過疎化が進んでいる。住民の生活習慣病罹患率が低い。全国同規模の自治体間で比較した場合、医療費の少なさはトップクラスである。
- (2) かつらぎ町： 県北部、中高山間部。主たる産業は農業。少子高齢化、過疎化が進んでいる。和歌山県立医科大学紀北分院が位置し、地域保健医療との連携がとれている。しかし、みなべ町に比較して住民の健康状態は不良であり、山間地域の医療へのアクセス問題など、課題は多い。

これら2自治体の、合わせて約1,000人の住民に対し実施された特定健診および動脈硬化検診から、詳細な健康指標データと、食や運動の生活習慣に関するアンケート調査結果を用いて、統計的な解析を行った。

また、次年度から研究対象地域を増やすために、上富田町との協議と準備を進めてきた。

- (3) 上富田町： 県南部、海岸部。周辺の観光都市に対するベッドタウン。独自の施策により転入者を増やし、県下で唯一の人口増加自治体（町）。若年層人口が多いため、三大疾病死亡率が突出して低い。

併行して、県内の地域差について理解を深めるために、現市町村および合併前の旧市町村ごとに、三大疾病、自殺、地勢や社会経済指標などのデータを集めて整備した。

また、これら市町村ごとのデータを、GIS 地理情報システムを用いて視覚的な把握が容易な資料として作成した。

また、当プログラムについての理解を広めるために、自治体行政関係者、医療福祉関係者、一般住民などを対象に、県内各地で説明の機会を設けている。

食と健康に関する「人材」を 和歌山県内で育成するためには



県民健康度の把握

- ・ 医療圏ごと
- ・ 人の生活基盤に近い「市町村」ごと



環境や習慣との関係の解明

- ・ 住環境
- ・ 生活習慣・食習慣
- ・ 職業
- ・ 行動様式や気質



「人材育成」プランの策定

- ・ 全県対応と
- ・ 地域別カスタマイズ

2

同じ県内でも 地域によって大きく違う

1. 地形、気候
2. 人口分布(高齢者比率)
3. 職業:会社員、農業、林業、漁業など
4. 交通の利便性
5. 医療へのアクセス

etc.

⇒住民の身体活動量、食事内容、睡眠時間など、生活習慣が様々に異なる

14

和医大によるコホート研究のフィールド

2011年から、動脈硬化健診を開始

- 【紀北】かつらぎ町
 - 平野と山間部
 - 高齢者人口比率が高い
 - 農業中心
- 【紀中】みなべ町
 - 中南部 海沿いの平野
 - 農業中心、漁業も
- 【紀南】上富田町
 - 南部 平野 人口増加
 - 若年者比率が高い



15

高血圧症の背景因子を探る(中間報告)

- 和医大による動脈硬化健診
- 生理学的検査の他、食事・飲酒・喫煙・運動・睡眠など、生活習慣調査の項目
- かつらぎ2012、みなべ2012、上富田2013
全1,382名を対象に、相関分析、重回帰分析などを行った結果—

住民の血圧に最も影響をあたえていたのが
食事におけるカリウム摂取量



体内の余分な塩分を排泄する



17